

社会科学習指導案

単元名「武家政権の内と外」

令和7年10月 第1学年 指導者 田中美帆

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会における歴史的分野の「B(2)中世の日本」に位置付けられ、武家政権の展開と、東アジア世界との密接な関わりについて理解し、中世の社会の変化の様子について多面的・多角的に考察し表現することを目的とする。

13世紀頃、大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大し、蒙古襲来が起きた。二度にわたる蒙古襲来により、封建制度で結ばれていた鎌倉幕府と御家人の関係が崩れることになった。鎌倉幕府の支配が揺らぎ、後醍醐天皇による倒幕の後、南北朝の内乱を経て室町幕府が成立した、大きな変動の時代であった。また、日明貿易、琉球の国際的な動きが展開し、東アジア世界との密接な関わりが見られた。特に蒙古襲来については、複数の資料・立場をもとに話し合う活動を行うことで、蒙古襲来が国内に及ぼした影響を、多面的・多角的に考察することができ、社会の変化や時代の特色を広く捉えることが可能となる。本単元を通し、生徒には複数の資料を根拠として自分の考えを論理的に表現する力、他者の意見を取り入れながら物事を俯瞰的に見る力を養いたい。

2 研究との関わり

研究テーマは「社会的事象を多面的・多角的に考えることのできる生徒の育成～タチバトークの活動を通して～」である。社会的事象に対して興味関心をもち、様々な視点で俯瞰的に見て考察できる生徒の育成を目指す。研究協力校の生徒は、教師の指示に対しては意欲的に取り組み、班活動も協力して行うことができる。一方で、社会科の内容に興味をもてず、自分の考えを表現することに消極的な生徒が多い。そのため、その時代に生きた人々の視点で解決される課題(トークテーマ)を設定し、その時代のそれぞれの立場だったらどのように考えるかを、調べ学習や複数の資料から読み取った情報をもとに考える活動を取り入れることで、社会的事象に対して実感をもって捉えるとともに、自分とのつながりを意識化することができ、興味関心を高められるのではないかと考えた。

実践①では、弥生時代の様々な人々の立場に立って考え、ムラとしてどのように行動するか、グループで話し合いを行った。学習課題について多角的に考えることができていたが、その考えの根拠となるものが不足している生徒がいたこと、多面的に考察させるための手立てが不十分であったことが課題として残った。そのため、実践②ではタチバトーク内で考察したり、意見を伝えたりするときに、多面的な視点を意識して選出した資料から根拠をもって考える展開にした。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・蒙古襲来(元寇)がユーラシア大陸の変化のなかで起こったことを理解する。・蒙古襲来(元寇)が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解する。	<ul style="list-style-type: none">・平氏や源氏、鎌倉幕府などについて小学校で学んだ内容については理解している生徒が多い。・歴史に関して苦手意識をもって取り組んでいる生徒も多々いる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・武家政権の展開と東アジアにおける交流、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察、表現する。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えをもって相手に伝えることについて苦手意識をもっている生徒も多々いるが、班活動やペア活動などではしっかりと取り組むことができる生徒は多い。

<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>・「大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という節の問いを主体的に追究する。</p>	<p>・意欲的に社会の授業に取り組む生徒が多いが、自ら疑問をもったり調べたりする生徒は少ない。</p>
---------------------	---	---

4 評価規準

<p>知識・技能</p>	<p>・蒙古襲来(元寇)が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解している。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>・武家政権の展開と東アジアにおける交流、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察、表現している。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>・「大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という節の問いを主体的に追究しようとしている。</p>

5 指導及び評価の計画（全4時間：本時第1時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1(本時)	<p>□13世紀ごろのモンゴル帝国の拡大について理解する。</p> <p>□「蒙古襲来(元寇)」についてタチバトークを行う。</p> <p>□蒙古襲来(元寇)が日本に与えた影響について考察する。</p> <div data-bbox="300 1160 1086 1308" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[節の問い] 大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか</p> </div> <div data-bbox="300 1330 1086 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[本時のめあて] 蒙古襲来(元寇)は日本にどのような影響を与えたのだろうか</p> </div>		●		<p>◆蒙古襲来が日本、幕府と御家人の関係に与えた影響について資料をもとに考察し、表現している。</p> <p><観察・ノート・ワークシート(思)></p>
追究する	2	<p>□鎌倉幕府の崩壊、建武の新政、南北朝の対立、室町幕府の成立について理解する。</p> <p>□鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いについて理解する。</p> <div data-bbox="300 1666 1141 1787" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[本時のめあて] 鎌倉幕府の崩壊後、政治はどのように変化したのだろうか</p> </div>	●			<p>◆鎌倉幕府崩壊から室町幕府成立までの流れや内容を理解している。</p> <p><観察・ノート・ワークシート(知)></p>

	3	<input type="checkbox"/> 倭寇の活動が東アジアで盛んだった理由を考察する。 <input type="checkbox"/> 勘合貿易の特色を理解する。 <input type="checkbox"/> 明や朝鮮と日本の関わりについて理解する。	○		◆ 明や朝鮮と日本の関係について資料をもとに理解している。 < 観察・ノート・ワークシート(知) >
		[本時のめあて] 室町幕府は、東アジア諸国とどのような関わりをもっていたのだろう			
追究する／つかう	4	<input type="checkbox"/> 琉球王国は中継貿易によって栄えた理由を考察し、特色を理解する。 <input type="checkbox"/> アイヌ民族の交易の特色を理解する。 <input type="checkbox"/> 「東アジアとの貿易」についてタチバトークを行う。 <input type="checkbox"/> 節の問いに対して自分の考えを考察する。			● ◆ 東アジアとの交流の中でどのように変化が起きたのか考察するとともに、節の問いに対する考えを表現している。< 観察・ノート・ワークシート(態) >
		[本時のめあて] 琉球王国やアイヌ民族は周辺諸国とどのような関係を築いたのだろう			

II 第1時の学習

1 ねらい

幕府と御家人の立場に分かれ、複数の資料を用いて「タチバトーク」を行うことで、蒙古襲来が日本に与えた影響について多面的・多角的に捉え、表現できるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(導入5分) S: 前は鎌倉文化について、いろいろな新しい仏教について学んだね。 S: 鎌倉時代は武士の世の中になっていたね。 S: この時代のユーラシア大陸ではどのような動きがあったのだろう。	○前時の学習の振り返りを行い、本時のめあてをつかむ。
<めあて> 蒙古襲来(元寇)は日本にどのような影響を与えたのだろう～幕府・御家人の立場から考えよう～	
2 13世紀頃の世界の様子やモンゴル帝国の拡大について確認する。(展開①10分) S: モンゴル帝国がこの時代ユーラシア大陸で一番大きな国だね。 S: ユーラシア大陸のほとんどを支配しているということはそれだけ力があつたんだね。 S: フビライ・ハンが「元」という国号に変えて	○13世紀頃の世界の様子を概観するため、教科書の図を確認するよう促す。 ○モンゴル帝国が支配力を強めていく中で、交通路が整備され、大陸の東西の交易や交流が活発化していったことにも意識できるようにする。

<p>さらに勢力を広めていったんだね。</p>	<p>○フビライ・ハンの時代に宋を倒し中国全土に支配を広げていったことから、その後はどのような動きをしていくのかを考える。</p>
<p>3 タチバトークを行い、日本ではどのような動きや変化があったのかを考察する。 (展開②30分)</p> <p>S : 高麗が元に征服されたから、次は近くの日本がねらわれるんじゃないかな。</p> <p>S : 元からの手紙には「服属を求める」って書かれているね。</p> <p>S : 海を隔てて少し距離があるから手紙内容に従わなくても大丈夫じゃないかな。でも、あれだけ大きな範囲を支配している元には従ったほうがいいのか？</p> <p>★タチバトーク①：元が攻めてきた！</p> <p>S【幕府】 資料 A・C : 九州のところを攻めてきているのが分かるから上陸させないようにさせよう。九州の武士達を動員して攻撃準備をさせよう。 資料 D : 元軍と戦う武士の絵では日本軍のほうが装備は強そうだ。でも元軍は日本にはない武器を使っているから御家人たちは苦労しそうだ。</p> <p>S【御家人】 資料 C・E : 幕府から遠征に行くように声がかかるから、その準備が必要だ。どこまで自分たちで準備しないとイケないのだろう。結構、お金がかかりそうだ。 資料 D・E : 装備は日本の方がしっかりしているけど、元軍は日本にはない武器を使っているのが不安だ。</p> <p>★タチバトーク②：蒙古襲来(元寇)後、恩賞が不足していた！</p> <p>S【幕府】 資料 I : 褒美として与えられる土地がないから他のものでどうにか納得してほしい。御家人の生活に負担をかけさせてしまったから、借金で手放した土地は取り戻してあげよう。</p> <p>S【御家人】 資料 F・H : 元軍対応を頑張ったし、色々な準備にお金もかかったのに新しい土地がもらえないなんて頑張りが損だ。生活がどんどん苦しくなっている。幕府を信用して戦ったのに、もう幕府は信用できない。</p>	<p>○日本への脅威として認識できるよう、元の支配範囲を示す図を用い、勢力圏の広がりに着目した読み取りを促す。</p> <p>○元が日本の服属を求める意図を捉えられるよう、元からの国書に示された要求の趣旨に留意し、記述内容の読解を支援する。</p> <p>◎「幕府」と「御家人」の立場を提示し、各グループで担当の立場に基づいた考察を促す。根拠となる資料を選択し、読み取りを行うことでそれぞれの立場の気持ちを考える。どの資料をもとにその立場の考えをもったのかを分かるように、選択した資料番号、資料から読み取れることを含めて記入する。</p> <p>○自分の学習プリントにもグループで考えた内容をメモしておくように伝える。</p> <p>○各グループの話し合い結果を共有するために、他グループで書かれた内容を見て回り、気付いたことを自分のグループ用紙に記入し、幕府や御家人の対応や気持ちの変化などについても理解を深めていく。</p> <p>○元軍は二度にわたり日本を攻めてきたが、暴風雨や内紛で引き上げていったことを確認する。</p> <p>①蒙古襲来は防衛戦だったことから新たな領地を得ることができなかったこと ②分割相続を繰り返し領地が狭くなり、御家人の生活苦に対して幕府が徳政令を出したが、上手くいかなかったこと ③北条氏が政治の中枢を独占していること ⇒①～③を主な背景として御家人の不満が高まっていたことに気付けるようにする。</p>

<p>4 本時の振り返りをする。 (終末5分)</p>	<p>○本時の振り返りを各グループで記入する。 全体共有としてホワイトボードに記入する。</p>
<p>◆評価項目</p> <p>蒙古襲来が日本に与えた影響について幕府や御家人の立場から、資料をもとに多面的に考察し、表現している。 <観察・ノート・ワークシート(思)></p>	

3 板書計画

<p><めあて> 蒙古襲来(元寇)は日本にどのような影響を与えたのだろうか</p> <p>13世紀モンゴル帝国建国：チンギス・ハン フビライ・ハン即位→宋滅ぼし中国全土統一 国号を「元」 日本に使者を送る→朝貢と服属を要求 8代執権北条時宗は拒否 元の襲来…蒙古襲来 文永の役 弘安の役 元寇後…御家人たちの不満高まる</p>	<p style="text-align: center;"><u>【立場】</u></p> <p style="text-align: center;">・幕府 ・御家人</p>									
	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">ホワイトボード</td> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	ホワイトボード								
ホワイトボード										

4 学習プリント使用資料一覧

A	モンゴル帝国の拡大(13~14世紀)
B	元からの手紙
C	文永の役・弘安の役における元軍の進路
D	元軍と戦う御家人(竹崎季長)
E	元軍を防ぐために築かれた防塁
F	領地の分割相続
G	守護の配置・北条氏一門の守護数
H	元寇後に恩賞を求める御家人(竹崎季長)
I	永仁の徳政令
J	神国思想(神風信仰)